

令和6年度屋外広告士試験

問題 B

広告デザイン

試験時間：13:00～14:20（退出可能時間：13:50～14:10）

次の注意をよく読んでから始めてください。

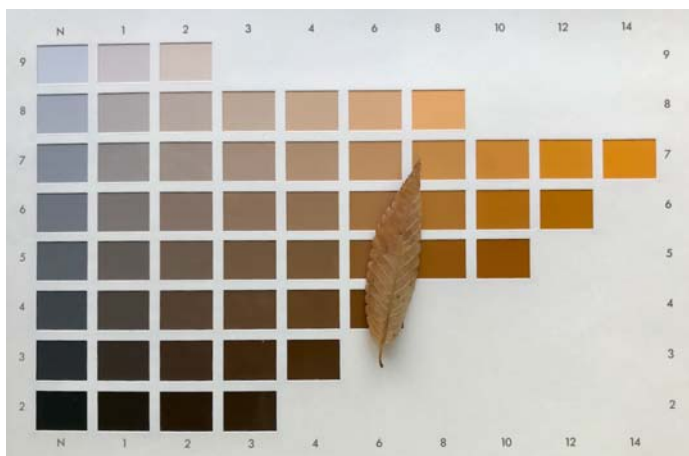
1. これは問題Bです。表紙を除き13ページ20問あります。
2. 問題はすべて必須問題です。
3. 氏名・受験地はマークシート解答用紙に記入してください。
4. 受験番号はマークシート解答用紙に記入し、該当する番号欄を鉛筆で塗りつぶしてください。
5. 解答はマークシート解答用紙の番号欄を鉛筆で塗りつぶしてください。
6. 1問に2つ以上解答した場合は正解としません。
7. 解答を訂正する場合は、消しゴムでていねいに消して訂正してください。
8. マークシート解答用紙は退席の際に回収します。
9. この問題冊子は持ち帰っても構いません。

【問1】 欧米における屋外広告物の歴史に関する記述として、**適切でないもの**はどれか。

1. 屋外広告物の掲出に関わる事業者らの自主規制や、景観を乱す立看板への市民の反対運動が、今日の欧米各国に見られる節度ある広告景観を築ききっかけとなった。
2. ロンドンのような大都市でも、街中の至る所にビラが貼られるような状況に対して規制が必要だという認識が生まれたのは20世紀に入ってからである。
3. 19世紀の米国では、当時使われ始めた電気をを用い、空中投光器で雲にメッセージをプロジェクションする広告が行われたことがある。
4. リトファスの円柱とは、街中にあふれるビラやポスターを収斂させ、秩序だった掲出法を実現する広告塔である。

【問2】 写真は、マンセル表色系の色相別カラーチャートに落ち葉を置いて簡易的に測色している風景である。

この落ち葉の測色の近似値として、**正しいもの**はどれか。



	色相	明度	彩度
1.	10YR	5.5	7
2.	10YR	7	5.5
3.	10R	5.5	7
4.	10R	7	5.5

【問3】写真は、今年の春先に撮影した都市公園である。
写真に見るような新緑の若葉の色に関する次の記述のうち、**適切なもの**はどれか。



1. 明度と彩度が関係する心理的効果でこの色は、明るくうすい印象を与える。
2. 樹種により多彩な色合いが見られるが、測色するとマンセル表示でG系色相の範囲に収まっている。
3. J I S「物体色の色名」で萌黄の慣用色名が用いられている。
4. J I S「物体色の色名」でこの色が対応する系統色名は、柔らかい黄緑色と表示される。

【問4】ハレーションの図に関する記述として、**適切なもの**はどれか。

1. ハレーションは補色関係の色彩のみで起こる縁辺対比である。
2. 図の中で一番強いハレーションを起こしているのは図Cである。
3. ハレーションの2色の間に白か黒を入れるとセパレーション効果で明瞭になる。
4. ハレーションには屋外広告物の誘目性と判読性の両方を高くする効果がある。



図A

図B

図C

【問5】視覚の構造に関する記述として、**適切なもの**はどれか。

1. 視細胞に含まれる視物質（感光色素）が光を吸収して生化学反応を生じ、視神経細胞で信号化されて脳に送り出される。大脳がこの信号を受け取ると、モノが見えたことになる。
2. 目の構造は、よくカメラに例えられる。まぶたはカメラのシャッターに相当し、瞳孔はレンズ、虹彩は絞り、網膜はフィルムに相当する。
3. 中心窩と呼ばれる網膜の中心部は、桿体視細胞のみで満たされ高い識別能力を持つが、網膜の周辺は錐体視細胞が増え識別能力は低下する。
4. 桿体視細胞は明るいところで働き、錐体視細胞は暗いところで働く。前者を明所視、後者を暗所視という。

【問6】屋外広告物のデザインにおいて参照すべき色彩調和の原理とその説明の組み合わせとして、**正しいもの**はどれか。

1. 共通要素の原理 — 表色系の色空間において、幾何学的な位置の関係にあるような色を用いた配色は調和するというもの。
2. 秩序性の原理 — 太陽光がつくり出す自然界の色の階調など、人にとって見慣れた配色をモデルとするもの。
3. 明瞭性の原理 — 使用されている色の差にあいまいなところがなく、適度な変化をもっている配色は調和するというもの。
4. 親近性の原理 — たとえば色相などにおいて、類似性の要素が多い配色は調和するというもの。

【問7】我が国における照明の歴史に関係のある記述の組み合わせとして、**誤っているもの**はどれか。

1. 明治時代 — アーク灯の点灯実験
2. 大正時代 — 二重コイル・フィラメントの発明
3. 昭和時代 — 蛍光灯の普及
4. 平成時代 — メタルハライドランプ・高圧ナトリウムランプの開発

【問8】写真の案内サインは、照明方式が左は外照式、右は内照式である。照明方式と読みやすい案内サインに関する記述として、適切なものはどれか。



1. 写真のような黒地に白文字（ネガ仕様）の場合は、照明方式に関わらず白い文字が縮小して見えるので、文字をやや太めにする読みやすくなる。
2. 内部に照明を伴わない外照式は板面が平坦なものであるため、明るさのムラが出ないように板面の照度を高める必要がある。
3. 外照式は昼間の電力使用が不要なメリットがあるが、板面の背景や周辺の明るさとコントラストをつけて板面を目立たせるような視認性の確保が必要となる。
4. 内照式に用いられる光源の多くは、省エネ電力である蛍光灯が最近の傾向である。

【問9】信号機に関する記述の空欄に入る語の組合わせとして、**正しいもの**はどれか。

信号機の光源は（ a ）への切り替えが進んでいる。（ a ）の性質としては、消費電力が低く、効率的に光を発光できる、（ b ）などのメリットが挙げられる。歩行者用信号機では、光の緑色と赤色の色彩に加えて、ピクトグラムによる（ c ）の情報を合わせて使っている。これによって色覚にハンデのある人にも利用しやすいサインとなっている。



(a)



(b)

(c)

- | | | | |
|----|-------|-------|----|
| 1. | レーザー光 | 長寿命 | 動き |
| 2. | レーザー光 | 機器が安価 | 形 |
| 3. | LED | 機器が安価 | 動き |
| 4. | LED | 長寿命 | 形 |

【問10】光や照明に関する記述として、**適切なもの**はどれか。

1. 屋外にある広告板の見えは、一般に日向では青みに、日陰では黄みに傾く傾向にある。
2. 短波長域の光が多い光源は赤みを帯び、長波長域の光を多く含む光源は青みを帯びる。
3. 電球など指向性の強い光を、素材の表面に対して浅い角度で照射すると、柔らかい表情をつくることができる。
4. テクスチャーは、照明等によって生まれる陰影の程度によって表情が変わるもので、色彩の知覚にも影響する。

【問11】写真は、駅前に設置されているシースルーエレベーターの外壁に白色で表示されている案内サインとその周辺の状況を撮影したものである。この案内サインの見え方を説明した記述として、**適切でないもの**はどれか。



1. 昼間の明所視においては、自転車、車椅子、エレベーターの表記を関係性の強い絵画的な記号表現とすることで、簡潔で判読のし易さが期待される。
2. 昼夜の明所視と暗所視に関わらず、ネガ仕様の白抜き文字のように明るさのコントラストが働き、視認性が期待される。
3. 夜間の暗所視において、目の衰えが影響する高齢者の場合、図と地の分化のおこりが弱い傾向にあることから視認性が劣ることが危惧される。
4. 決して誘目性が高くない白を統一して用いることで、駅前の煩雑な環境下で調和性を高めている。

【問12】屋外広告物に表現される情報量と人による判読時間に関する記述として、**適切でないもの**はどれか。

1. 歩きながら様々なところを見ている人の目が1ヵ所に滞留する時間は、おおむね0.3秒程度である。
2. 歩きながら様々なところを見ている人の目が1ヵ所に滞留し、その間に読むことができる文字数は、日本語で15字程度である。
3. 文字のレイアウトや色の使い方によって、判読できる文字量や判読時間にかかわらず、屋外広告物の訴求力を高めることができる。
4. 自動車に乗って時速40km/h程度で走行している場合、人の目が1ヵ所に滞留する時間は、歩行の場合よりも長くなる。

【問13】欧文書体の図に関する記述の空欄に入る語の組合わせとして、**正しいもの**はどれか。

欧文書体のプロポーションは図のように5本の横線によって決まる。線と線の間の大ささについては、アを（ a ）、ウを（ b ）と呼ぶ。欧文書体の可読性は文字の太さと並んで、図の（ c ）が大きく影響する。



- | | (a) | (b) | (c) |
|----|---------|--------|-----|
| 1. | エックスハイト | ボディサイズ | ア |
| 2. | エックスハイト | エイチハイト | イ |
| 3. | キャップハイト | エイチハイト | ア |
| 4. | キャップハイト | ボディサイズ | イ |

【問14】家紋・シンボル・ピクトグラムに関する記述として、**適切でないもの**はどれか。

1. 階級社会における家紋は、身分と直結していたため、洋の東西を問わず時の体制によって厳格に管理された。現在、日本では、国の機関によって管理されるものとして、商標の登録や意匠権がある。
2. サインやシンボルには様々な定義があるが、一例をあげると、図像（アイコン）とは、直接知覚しにくい事象Aを「近接性」の原理に基づく事象Bで示すとき、BはAの〈図像〉という。
3. アイソタイプ（ISOTYPE）とは、International System Of Typographic Picture Educationの頭文字をとったものであることからわかるように、情報伝達のための図記号や絵文字の体系を指す。
4. ピクトグラム（Pictogram）とは、図記号や絵文字そのものを指す言葉であり、ビジュアルシンボル、シンボルサインなどとも言われるが、これらの違いをあげれば、ピクトグラムは体系を指向する傾向が強いといえる。

【問15】自然景観の中に設置される屋外広告物に関する記述として、**適切でないもの**はどれか。

1. 自然素材を用いた屋外広告物が望ましいが、自然素材を使用することにはデメリットもあるので、それを克服するために人工的な素材の使用も検討するなど、自然素材の使用を絶対視する必要はない。
2. 我が国では、景観法が施行される以前から、国立・国定公園などでは屋外広告物に関する厳格な規制が行われてきた。
3. 自然景観の中では、近景ないし中近景において広告効果が期待される広告物の掲出は厳に抑制されるべきであることから、遠景のスケールにおいて広告効果が期待される広告物が基本となる。
4. 屋外広告物の視認性や誘目性を確保するために用いられる色彩は、自然景観の基調をなしている色彩とは対照的なものとなってしまう可能性が高い。

【問16】屋外広告物のコントロールに関する記述として、**適切でないもの**はどれか。

1. 個々の屋外広告物の規模が大きくなる背景には、建築物の大規模化や高層化、市街地の外縁的拡大に伴う郊外の大規模敷地の開発、交通手段の高速化、の3つの要因があったと言われる。
2. 交通網の結節点である鉄道駅の周辺地区や商業地区とその周辺においては、屋外広告物の集積密度は高く、商業・業務施設の増加に伴って、その総量も増大する傾向がある。一方、郊外の幹線道路沿いでは、屋外広告物の線的な集積と総量の増大が進んできた。
3. ある空間領域において、小規模な広告物が大量に集積している場合も、大規模な広告物が偏在している場合も、総量が同じであれば、景観への影響のあり方は同じである。
4. 街路景観を形成する屋外広告物の規模は、道路とその両側に建つ建築物のスケールとプロポーションに調和していることが重要である。ここでいう「調和」とは、屋外広告物が規模や形態の面から街並み景観を攪乱する要素とならないことを意味する。

【問17】 図についての記述の空欄に入る語の組合わせとして、正しいものはどれか。

下図のピクトグラムのうち、標準案内用図記号は（ a ）である。日本でのピクトグラムの普及は1964年の（ b ）が契機となった。その後、イベントでの活用から日常生活の中での様々な表示へと普及していく。ピクトグラムの始祖とも言えるアイソタイプは、1920年代に（ c ）により考案された。



図 1



図 2

(a)

(b)

(c)

- | | | | |
|----|-----|----------|------------|
| 1. | 図 1 | 日本万国博覧会 | オトル・アイヒャー |
| 2. | 図 2 | 日本万国博覧会 | オットー・ノイラート |
| 3. | 図 2 | 東京オリンピック | オトル・アイヒャー |
| 4. | 図 1 | 東京オリンピック | オットー・ノイラート |

【問18】 広告サインの製作にあたって環境対策が求められている昨今である。製作時の環境対策とその対応の組み合わせとして、**誤っているものはどれか。**

環境対策	対 応
1. エコマテリアルの調達	－ 再利用してつくられた材料や製品を活用する
2. 節 約	－ 再製作することで過剰な大きさや台数を見直す
3. 長期利用可能なデザイン	－ 雨水の侵入が避けられる水抜きや虫除け網を設置する
4. 再利用	－ 部品や画面を接着せず分離して組み立てできるようにしておく

【問19】 屋外広告物とインターネットに関する記述として、**適切でないものはどれか。**

1. 屋外広告物は日常生活の中で目にするリアリティがあるが、速報性には弱く、大量の情報を掲出できない。
2. インターネットは広く普及し、即時性と大量の情報を流すことが可能であり、広告の情報内容の信頼度も高い。
3. 屋外広告物とインターネットの双方の性質を活かしてURL、QRコードから連携させる広告計画が登場している。
4. 公共案内サインでは、案内板のQRコードからインターネットで多言語表示に接続することで海外からの観光客に情報提供する事例がある。

【問20】屋外広告物のデザイン・製作プロセスに関する記述として、**適切でないもの**はどれか。

1. サイン計画を依頼された場合、施主のニーズを正確に理解することは重要だが、施主が求めるようなサインが本当に効果的かどうかは、専門家として疑ってみる姿勢も重要である。
2. 道路沿いのサイン計画では、計画地の人や車の流れである動線のほか、太陽光のあたり方や夜間の景観を把握するとともに、サインを通してメッセージを伝えたい相手について調査する必要がある。
3. デザインというといふ具体的な絵づくりに走りがちだが、しっかりとしたコンセプトをつくることも大事である。通常、商品や施設は企業等の理念に基づいてつくられている場合がほとんどなので、まずはこれを確認する必要がある。
4. デザイン案を作成する段階では、使用する素材や加工法、それに伴う予算まで想定する必要はないが、ディテールはできるかぎりの検討を行い、製作・施工が可能な案をつくらなければならない。